

令和元年 新時代県政を振り返って

「徹底現場主義」「県民主役」「市町との協働」を掲げ、令和の新時代にふさわしい「チームふくい」による県政をスタート

行政チェンジ

- 徹底現場主義
 - ・「現場でトーク」や「微住」の実施により、地域の実情や県民の声を把握
- 県職員の行動規範「クレド」策定
- 「長期ビジョン」の策定に着手
- 県庁組織の見直し
 - ・地域戦略部、交流文化部を設置
- 予算編成（6月補正）
 - ・市町長との意見交換会を開催
 - ・北陸新幹線開業に向けた交流拡大、経済・産業の活性化、教育・子育てなどの担い手育成、防災・減災、国土強靱化対策などを重点的に編成
- 既存事業見直しのための「県民会議」を開催

高速交通インフラの整備が着実に進展

- 3年後の開業に向け整備が進む北陸新幹線
 - ・県内4駅舎の内装デザインの公表
 - ・九頭竜川橋りょうの橋桁の連結や石川県境をまたぐ加賀トンネルの貫通
 - ・敦賀・新大阪間のおおまかなルートと駅の位置の公表
 - ・環境アセスメントの手続き開始
 - ・並行在来線準備会社を設立
- 高規格道路のミッシングリンク解消と機能強化
 - ・中部縦貫自動車道 大野油坂道路の早期開通に向けた工事進展
 - ・舞鶴若狭自動車道 付加車線設置（4車線化）事業化（県内：京都府境～小浜西間11km）

夢・チャレンジを徹底応援

- 県民のチャレンジを応援
 - ・若者や女性の活動への「ちょい足し」応援をスタート
 - ・「ふくい若者フォーラム」が創設され、「ふくい若者ミライ会議」を開催
 - ・県外大学との就職支援協定締結の拡大（8校→22校）
 - ・福井国体のレガシーを活かし茨城国体総合成績10位を獲得
 - ・アスリートナイトゲームズやワンパークフェスティバルの開催に協力
- 子育て先進県ふくいのレベルアップ
 - ・私立高校授業料無償化の対象を拡大する県独自の制度を創設
 - ・国による10月の幼児教育・保育の無償化に合わせ、県独自の助成制度を創設
 - ・保育人材センターを開設

産業振興の新たな挑戦

- 農林水産業は福井の基（もと）なり
 - ・ 県内3か所でスマート農業実証実験を開始
 - ・ 園芸体験施設「園芸LABOの丘」をオープン
 - ・ 「ふくい水産振興センター」を設立
- 宇宙産業への進出
 - ・ 宇宙国際会議「ISTS」と「宇宙フェス in 福井」を開催
 - ・ 「県民衛星」の名称が「すいせん」に決定
 - ・ 県内企業と県などが製造に関わった小型の人工衛星2基がISSから放出
- 海外市場への販路拡大
 - ・ 海外ビジネス相談窓口「ふくいグローバルビジネスプラザ」を開設
 - ・ 中国向け越境ECサイトに県産品を専門に扱う「福井館」を開設
 - ・ 香港に「食の営業代行」を配置
 - ・ 台湾で開催された「台北国際建築建材及び産品展」に県産木材製品を初めて出展

ふくいの魅力を国内外に発信

- 恐竜
 - ・ 恐竜博物館の入館者数が11月末に過去最速で80万人を突破
 - ・ 第4次発掘調査（勝山市）で発見された国内最古の鳥類の骨格化石を「フクイプレリクス・プリマ」（原始的な福井の翼）と命名
- 食や伝統工芸
 - ・ 「御食国・和食の祭典 in 若狭路2019」を開催（小浜市）
 - ・ 「テオ・ヤンセン展 in ふくい&クラフトエキシビジョン」を開催（サンドーム福井）
- 日本遺産認定
 - ・ 「石から読み解く中世・近世のまちづくり」（一乗谷朝倉氏遺跡、白山平泉寺）
- 小説「2. 43」
 - ・ 福井県が舞台の小説『2. 43 清陰高校男子バレー部』とのコラボ企画を実施

安全・安心な暮らしを実現

- CSF（豚コレラ）への対応
 - ・ CSF発生翌日にワクチン接種を国に要請、10月にワクチンを接種
 - ・ 速やかな防疫措置、イノシシ捕獲強化
- ドクターヘリの運航
 - ・ 大野市和泉地区を対象として岐阜県と共同運航を開始
 - ・ 県内全域を対象として令和3年の単独運航を目指す準備をスタート
- 防災訓練の実施
 - ・ 関西電力美浜発電所3号機での事故を想定した原子力総合防災訓練を実施
 - ・ 中部ブロック7県の緊急消防援助隊との合同防災訓練を実施
- 台風第19号支援
 - ・ 発災当初から保健師等の職員を長野県に派遣
 - ・ 約2週間に渡ってボランティアを派遣
 - ・ 長野県のふるさと納税を代行